

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2772401663
法人名	有限会社 真美
事業所名	グループホーム 花梨
訪問調査日	平成 20 年 9 月 18 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 22 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月24日

【評価実施概要】

事業所番号	2772401663
法人名	有限会社 真美
事業所名	グループホーム 花梨
所在地	枚方市南中振2丁目9番10号 (電話) 072-834-2800

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年9月18日	評価確定日	平成20年10月22日

【情報提供票より】(20年9月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	5 人
職員数	7 人	常勤 4 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	3.8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,644 円	

(4) 利用者の概要(9月4日現在)

利用者人数	5 名	男性	0 名	女性	5 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低 74 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石川整形外科内科、なかいえ歯科、
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京阪電車光善寺駅から徒歩7分、旧家が多い静かな住宅街にある。塀に囲まれた屋敷のなかに母屋と別棟のホームがある。大きく開かれた門扉を入ると広い庭に植木や草花が植えられた中庭に続きホームの玄関がある。玄関は施錠されず管理者の母や近所の人、気軽に出入りしておしゃべりを楽しんでゆく。管理者(代表)は施設ボランティアから、特養ホームでの6年余りの高齢者介護の経験を踏まえ、ゆったりとした家族的な介護を目指して、平成14年10月1日ホームを開設した。定員5名の少人数で、家庭的な雰囲気のなかで一人ひとりがその人らしく暮らせることを大切に介護がされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題は「①理念に地域と共に生きる考えを表現する。②自己評価の意義について職員で話し合う。③入居後に聞き取った生活歴などの個人ファイルを作成する。」の3点。①地域住民との交流を大切に。②自己評価と外部評価の意義を理解し改善に活かしている。③個人ファイルはよく整理されていた。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価及び外部評価を実施する意義について理解し、全職員で日々業務のなかで話し合い改善に取り組んでいる。前回評価を運営推進会議や家族に公表し、意見を貰っている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催。地域包括支援センター、自治会長、民生委員、利用者、家族代表等が出席し、日々の利用者の状況やホームの行事について報告する。管理者は古くからの住民であり、出席者が顔馴染みで意見要望など気軽に話し合える。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者が少人数で家族の訪問も多い。家族との信頼関係は良好で、話しやすい雰囲気がある。家族の意見や希望を聞いてノートに記録し、職員で話し合い解決に向けた取り組みをしている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	敷地内に管理者が居住する母屋がある。旧家が多い地域で、管理者の母は前自治会長で地域との繋がりは深い。ホームの行事には地域の方々をお招きし、地域の行事(盆踊り、秋祭り、餅つき大会)に積極的に参加している。知合いのぶどう園のぶどう狩りや、珍しい草花を育てる屋敷に招待されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「①笑顔と温もりを大切に、②地域住民との交流を大切に、③一人一人がその人らしく暮らせることを大切に」を、理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、墨で大きい字で分かりやすく書いて、玄関に掲げている。管理者と職員が共に日々話し合い、意識して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敷地内に管理者家族が居住する母屋があり、別棟にホームがある。旧家が多い地域にありホームを囲んで親族が居住する。管理者の母は前自治会長であり地域との交流が深い。地域の行事に積極的に参加し、ホームにも地域の方々をお招きしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、自己評価及び外部評価を実施する意義について理解し、全職員で日々の業務のなかで話し合い改善に取り組んでいる。前回評価を運営推進会議や家族にも公表している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。地域包括支援センター、自治会長、民生委員、利用者、家族代表が出席して、外部評価及び自己評価についての取り組みを報告し、意見を貰うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市担当者の出席はないが、研修会や会議、養成講座などに積極的に参加し、情報収集に努めている。またホームの状況を伝えて相談し問題解決に繋げている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者が少人数で家族の訪問が多いため、直接利用者の日々の過ごし方、身体状況などを報告している。健康に異常があった場合はすぐに連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が要望や苦情を気安く言える雰囲気をつくり、苦情記録ノートを作成して早急に話し合い、解決に向けた取り組みをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ない。職員の補充には利用者信頼関係を保てる職員を選考している。管理者の姉と子息が常勤職員として勤務し、利用者へのダメージを防ぐ配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の希望に応じ研修や資格取得のための時間調整をして機会をつくり、費用援助をして職員を育てている。また、職員を他施設の実習などにも参加させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会、介護支援専門委員会、介護相談会など地域の事業者と交流する機会に、事例検討や諸問題について意見交換をしている。グループホームや介護施設に友人が多く相互訪問をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域に根ざしたホームのため、利用者の中に顔なじみがあり、職員と利用者や家族との話し合いや、体験入居を通して利用者が納得した上でサービスを利用している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームには、自分の家でくつろいで話し合ってる雰囲気があり、利用者、職員の別なくよく会話する関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の経験や生活歴、身体状況など、家族からの情報を基に思いや希望の把握に努めている。傾聴ボランティアが月2回、介護相談員が月1回、訪問されて管理者に報告があり、共に改善の方法を考えている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の希望を基に、在宅での介護関係事業者などと十分に話し合い、状態に合わせた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを行い、3ヶ月に1回見直しをしている。変化が生じた場合はその都度利用者の状態に合わせ、利用者、家族、全職員、医師の意見を取り入れた介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ⁷ の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の通院介助がない場合や、急な受診時の送迎、利用者の外出支援などを行なっている。ボランティアを受け入れて、利用者の習い事の支援など、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院はあるが、利用者や家族の希望により、引き続き従来のかかりつけ医による受診ができるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在まで、終末期の利用者はいないが、重度化し終末期ケアの必要が生じた場合等に対応する「緊急時の医療対応への同意書及び事前指定書」を作成して、利用者や家族等に説明し同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を大切に、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう、管理者・職員がお互い注意しあいながら対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが自分のペースで自由に過せるよう、利用者の希望にそって体調に配慮しながら柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れた献立づくりをしている。利用者と職員と一緒に食事をし、楽しい会話ができるよう心がけている。管理者の母が育てた新鮮な野菜を使った料理があり、美しい花が食卓を飾っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、利用者の体調や希望に応じて柔軟に対応している。ストーマ装着者には、必要に応じて何時でも入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字や体操、ジグソーパズル、貼り絵の作成など、利用者がそれぞれ自由に選んで行なっている。買物などの外出にも利用者の希望を聞いて対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは静かで落ち着いた住宅街にあり、利用者1人づつ職員が付き添ってゆっくりとした散歩をしている。家族との外出はいつでも自由にできるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	通りに面した門は大きく開かれ、中庭に続くホームの玄関も施錠されていない。隣近所の住民との交流が長く深い、見守りの信頼関係が築かれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練(総合訓練と部分訓練)を実施している。講師を招いて災害時の研修を行なっている。近所や自治会、消防署に日ごろから緊急時の協力を依頼している。	○	管理者家族が母屋に住んでいるので、災害時の避難には対応できると思われるが、利用者の状態に合わせてホーム内の避難訓練を数多く実施されることを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養バランスを心がけ、食事や水分の摂取量などを記録して、個人別の健康管理表を作成して、一人ひとりの健康状態を把握して検討している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は落ち着いた雰囲気があり、食堂からテラスに続いて広い庭がある。植木や草花が植えられ心が和む。テレビの前にソファがあり、ゆっくり寛げる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談しながら、馴染みの調度品を持ち込み自由に飾り付けをして、落ち着いて過せるよう工夫をしている。ホームが各部屋に文字が見やすい時計を壁に掛けている。		